「京都未来実現会議（仮称）」最終発表会

資料５－３

多世代交流の居場所づくり

京都府チーム

2026年11月3日（火）

01 チーム紹介

イベント

高木 花恵
野中 恭侍
亀井 梨沙
村田 瑛美
中村 美涼
林 美緒

居場所

堤 咲智
中平 龍之介
七五三木 晴臣
辻 桃花
藤井 千真





▲活動の様子▲

02 活動のプロセス

1	2	3	4	5	6
7/31	8月	8月	8/21	10/24	11/3
知る つながる	見つける	つくる	磨く	伝える	発表する
現状を知る	課題を分析	提案を形に	他チームと 共有	中間発表	本日はここ

03 私たちのテーマ

【多世代交流の居場所づくり】

全ての世代が均等に交流できる場

=

全ての人にとって暮らしやすい地域
への実現にも繋がる

03 私たちのテーマ

多世代交流の場が充実していないと…

- 他世代交流が活発ではなくなる。
- そうなると中高生が「自分の地域」という意識を持ちづらい。
- 将来の地域活動の担い手が少なくなってしまう。
- そうなると運営の高齢化などで地域活動そのものが縮小してしまう。

04 現状分析・発見



【気付き①】

「久御山町ひとまちジャンクション」さんとの交流から

中高生世代の地域イベントへの参加率が低い

→ 中高生は忙しく、わざわざ足を運ばない

グループメンバーの体験談

時間が合わないのでいつのまにか
行かなくなっていた

同世代がいるイメージがなく、
あまり行きたいと思わない

04 現状分析・発見

【気付き①】

中高生の平均的な年間スケジュール（例）

2ヶ月ごとにテスト
イベントも多い
どちらも準備必要！

4月	5月	6月	7月	8月	9月
入学式 始業式 新入生歓迎会 部活動紹介 オリエンテーション	中間テスト 体育祭・運動会 総体（総合体育大会）の地区予選	模試 水泳大会 球技大会 宿泊研修	期末テスト 終業式 夏期講習 部活動の合宿や大会 文化祭準備	夏休み お盆の帰省 文化祭準備	文化祭 合唱コンクール 新人戦 体育祭
10月	**11月**	**12月**	**1月**	**2月**	**3月**
中間テスト 模試	修学旅行 （学校による）	期末テスト 冬休み 模試	始業式 中学受験	高校受験 共通テスト	学年末テスト 春休み

04 現状分析・発見

【気付き①】

毎日の学校に加えて
塾や部活、習い事があり
とにかく忙しい！！！

中高生の平均的な週間スケジュール（例）

月	火	水	木	金	土	日
学校 朝小テスト 宿題	学校 朝小テスト 宿題	学校 朝小テスト 宿題	学校 朝小テスト 宿題	学校 朝小テスト 宿題	宿題 （模試）	宿題
部活	部活		部活	部活	部活	
塾、習い事	習い事		塾	塾		

週の始まりは
しんどいです

04 現状分析・発見

【気づき②】

京都府知事との対談

多世代交流が不足している現状を指摘

→多世代交流の場を設けることで期待できる効果

・普段関わる機会が少ない世代の人たちに人生の助言をもらえる

・学校の勉強だけでは補えない学びがある

04 現状分析・発見

【気づき③】

自分たちのマインドマップから

→「多世代交流の場」は２つの意味を持つ

① 居場所

全ての世代の人が継続的に通うことができ、安心や居心地の良さを得ることができる

② イベント

単発的に色々な世代の人が一斉に参加し、みんなで一丸となって地域を盛り上げ楽しむことができる

04 現状分析・発見

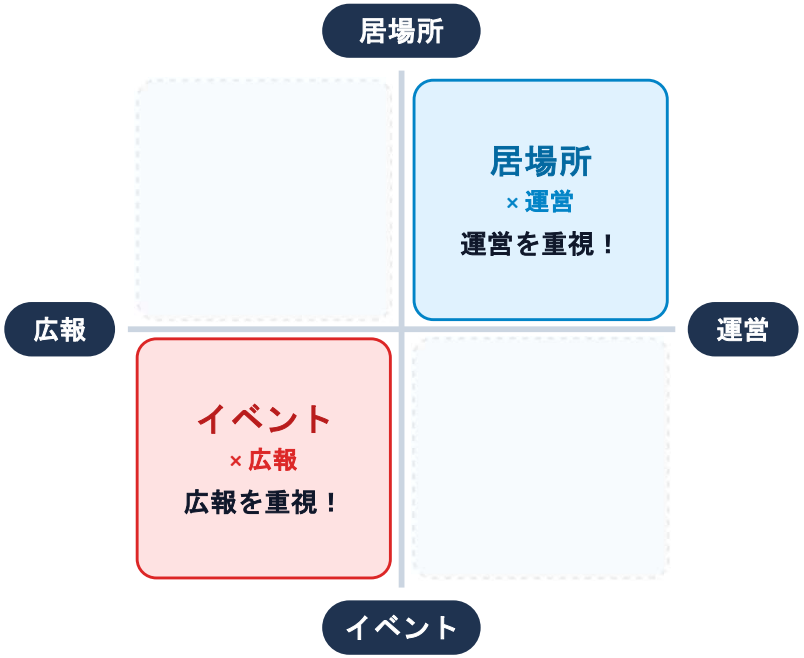
【気づき③から考えたこと】

交流の場は居場所とイベントの２軸で分けられる

イベント：受け取り手に適した告知方法

居場所：交流を促す仕組み作り

→イベントは広報を、
居場所は運営をより重視すべき



05 わたしたちの提案

【中高生が考える多世代交流の手引きの作成】

→ 多世代交流の場に不足しがち

↓

中高生の視点からの意見・提案
=より幅広い年代が参加できるイベント・居場所

05 提案の詳細/イベント班

【広報で意識すべき点】

①イメージをもてる

②SNSの活用

05 提案の詳細/イベント班

【①イメージを持てることについて】

・写真（年齢層・雰囲気）
・過去のイベントの様子を紹介
・具体的な活動内容を記載
→参加への不安を減らし、
安心感に繋げる
→イベントへの参加意識を高める







活動写真の例

05 提案の詳細/イベント班

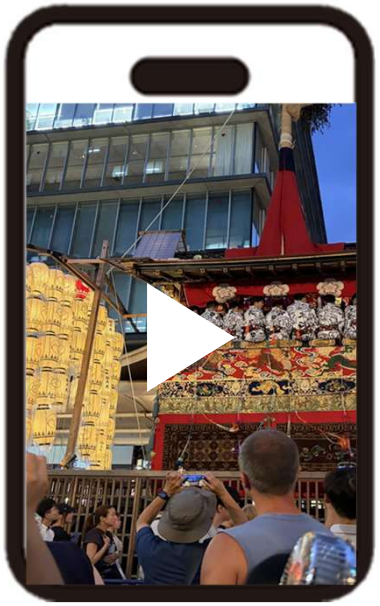
【②SNSの活用について】

①動画を使える

・イメージがもてる
・ポスターだけでは伝えられない魅力を出せる

②中高生の情報収集のツール

・多くの中高生はSNSで見たところに行ったり、食べたり、体験したりする



06 提案の詳細/居場所班

【運営で意識すべき点】

①いつでもスキマ時間に通える場所

②人の温かみを感じられる場所

③遊びに行くのが魅力的な場所

06 提案の詳細/居場所班

【①いつでもスキマ時間に通える場所】

🟢 良い時間帯

・中高生が比較的暇な時間:平日の早朝 / 夜・休日など

→特に休日は多くの世代の人が集まることができる

❌良くない時間帯

・中高生が部活や授業をしている時間など

→平日の昼間・休日の午前中など



06 提案の詳細/居場所班

【②人の温かみを感じられる場所】

🟢 良い場所

・「おはよう」「こんにちは」など自然に挨拶が飛び交う

・親や友達でなくても親身に相談に乗ってくれる人がいる

❌悪い場所

・交流が生まれる仕掛けや声かけが一切ない



06 提案の詳細/居場所班



【③遊びに行くのが魅力的な場所】

🟢 良い場所

・どんな年代の人でも楽しむことができる遊びがある

例）ボードゲーム、ルールがシンプルなテレビゲームなど

❌悪い場所

・若い世代だけでゲームをしたり、お年寄りだけで将棋をしており、交流がない

07 期待される効果

【これから】

- 中高生が来ることで、地域の多世代交流が活性化。
  将来の地域活動の担い手も増え、持続可能な地域になる。
- 若者ならではの意見で新しい企画や活動が生まれ、地域が発展していく。
- 中高生の協調性、コミュニケーション能力などの成長。

08 まとめ/今後にむけて

【中高生が地域の問題に関わることが重要】

＜今後に向けて＞

- 今回得た新たな視点を活かし、実際に地域のイベントに参加してみる
- 私たちと同世代のより多くの中高生が今回知った地域交流の重要性を知り、より身近に感じて欲しい